

# 初中級学習者が「聞き手参加型聴解」を行うために

: 生の雑談の分析に基づいて

山森理恵（横浜国立大学）

金庭久美子（立教大学）

奥野由紀子（首都大学東京）

キーワード：聞き手参加型聴解、初中級学習者、雑談、情報照合、情報保持

## 1. はじめに

聴解の教材開発は、4技能の中でも最も遅れているとも言われている（伊 2002、横山 2004 等）。会話を聞く教材も、従来の教材のほとんどは、聞き手が当該の会話に直接参与せず、学習者に全く関係のない会話を傍らから聞く「傍聴型聴解」である。その内容を確認するという形式のものが多く、聴解テストや教材における現実性の欠如が指摘されてきた（松崎 2008、奥野 2016 等）。こうした教材では、教室外で実際に耳にする生の雑談が聞けるようになることは難しい。

相手と共に過ごし、よりよい人間関係を築いてコミュニケーションを行うためには雑談が欠かせないが、その雑談が行えるようになるためには、学習者が聞き取った内容に合った反応・応答をする「聞き手参加型聴解（奥野他 2016、奥野 2017）」が、日本語レベルを問わず非常に重要である。

そこで、本研究は、初中級学習者が雑談を聞いて「参加型聴解」ができるように、雑談を聞くうえで必要かつ初中級学習者にとって困難と思われるスキルについて、収集した生の雑談をもとに分析・考察し、練習方法を提案することを目的とする。

## 2. データの概要

大学で日本語を学ぶ学習者を念頭に、同年代の母語話者同士や、非母語話者と母語話者の雑談をデータとして収集した。トピック例はいくつか提示したが、実際にどんなトピックを話すかは協力者に委ねた。そのように収集した雑談データのうち、聴解教材に求められる要素（山森 2016）を踏まえて初中級学習者向けに選んだ 15 の雑談（計 166 分）を文字化し、その中で聞き手にどのようなスキルが求められるか分析した。

## 3. 初中級学習者が「聞き手参加型聴解」を行うために

### 3. 1 談話全体の理解の必要性

データを分析したところ、「掛け持ちしなきゃって言って」などの話し言葉特有の表現、言いよどみ、語順の乱れなどが見られた。そういった特徴があることは従来の研究でも指摘されており、初中級学習者の理解を妨げないような練習が必要と考えられるが、本研究では、初中級学習者が雑談に参加できることを目標として、特定の表現形式や単文を理解するだけでなく、談話全体の理解ができるようになるためにどのようなスキルが必要か検討する。

### 3. 2 「情報照合」のスキル

聞き手がどのように談話全体を理解しているのか考えるため、まず、聞き手が談話を理解したことを示す応答をしている箇所注目し、観察した。例えば(1)では聞き手である B の応答は、聞いた内容を

理解したことを示すとともに驚きの態度を示している。話し手である A も笑っていることから、A の発話にはないが、A が小さな宮島に 1 週間も滞在することは普通でないと考えていることがうかがえる。

(1) データ 1：友人同士が旅行体験について話している

A：宮島に俺 1 週間ぐらいいたよ（笑）。

B：そんなにいたんだ。

この場合、B も「宮島は小さい島で 1 週間も滞在するような所ではない」という背景知識を持っていたからこそ、聞き取った内容と照合して A の発話に驚きの態度が示せたと思われる。聞き手が自らの持つ背景知識と聞き取った情報を照合しながら聞くというスキルを用いることで、より深い理解が可能になることがわかる。このように背景知識と聞き取った情報を照合しながら聞くスキルを「情報照合」のスキルと呼ぶことにする。

### 3. 3 「情報保持」のスキル

さらに、話し手がターンをとり、まとまった話をしているときの聞き手の様子を観察した。例(2)では、A が自分に起こった出来事を話しており、聞き手はそれを受けて相槌を打ったり笑ったりしている。

(2) データ 2：友人同士で靴下について話している

A：そんなに買うことないんだけどくうん>靴下屋でめずらしく靴下を買って、家帰ってきたら、同じ日にお姉ちゃんが同じ靴下を買ってきて<はははははは>ってというのが 2 回ぐらいあって<ははは>全然お姉ちゃんと服の趣味違うのにくうん>靴下だけは、なんか全く同じ、同じ柄の同じ色の靴下を買って、同じ日に買ってことになる、はははは<はははははは>それはほんとに謎！

聞き手は、「姉が同じ日に同じ靴下を買ってきたこと」、「同様のことが 2 回ぐらいあったこと」について笑っている。さらに、「姉と全く趣味が違うのに同じ行動をする」ということが笑いを大きくしている。1 つのまとまった話の中で出てきたこれらの情報を全て保持してまとめることで、話し手に起こった事態とその面白さを理解している。このように、ある程度まとまった話を聞くうえでは、複数の情報をまとめて理解するという作業、情報を保持しながら聞くスキルが必要であることがわかる。このようなスキルを「情報保持」のスキルと呼ぶことにする。

### 3. 4 まとめ

以上のことから、談話全体の理解のための方略として「情報照合」や「情報保持」などのスキルが必要で、学習者にはそれらを使った聴解練習が必要であると考えられる。

## 4. スキルを身につけるための練習

### 4. 1 「情報照合」のスキルのための練習

初中級学習者に対する聴解授業では、単文の聞き取りに焦点を当てた練習が一般的であるが、雑談では談話全体を理解しつつ、応答することも期待される。「聞き手参加型聴解」を行うことが必要であり、聞いて理解して、聞き手自身が持つ背景知識と聞き取った情報を照合し、理解したことを示す練習が有効であると考えられる。そこで、はじめに背景知識を与えてから、聞き取りを行い、情報を照合して聞き手として適切な態度を選ぶ練習方法を提案する。例えば(3)や(4)などの練習方法である。

(3) 「情報照合」のスキル練習例 1

背景知識…東京から京都までは新幹線で 2 時間半だ

聞き取り…A：東京から京都まで、バスで 8 時間だった。

B：a. あ、そう。 / b. そんなにかかるんだ。

#### (4) 「情報照合」のスキル練習例 2

背景知識…正月のホテルはいつもより高い

聞き取り…A：お正月に旅行に行くんだけど、ホテルがいつもの2倍だった。

B：a. へえ、そうか。 / b. あ、やっぱり。

このような練習を多数繰り返すことで、「情報照合」のスキルを身につけつつ、「参加型聴解」につなげていく方法が有効であると考えられる。

#### 4. 2 「情報保持」のスキルのための練習

ある程度まとまった話を聞くうえで、複数の情報をまとめて理解するという作業、情報を保持しながら聞くスキルが必要であることを指摘したが、学習者にとって容易なことではなく、特に初中級学習者は練習が必要である。そこで、まとまった長さの、同じような談話構造の会話で、内容の異なる会話を繰り返し聞く練習を行う方法が考えられる。(5)は前掲のスク립トであるが、(6)は(5)の談話構造に合わせて作ったスク립トである。

##### (5) 例(2)の談話パターン

A：(靴下は) そんなに買うことないんだけど<うん>靴下屋でめずらしく靴下を買って、家帰ってきたら、同じ日にお姉ちゃんが同じ靴下を買ってきた<はははははは>っていうのが2回ぐらいあって<ははは>全然お姉ちゃんと服の趣味違うのに<うん>靴下だけは、なんか全く同じ、同じ柄の同じ色の靴下を買って、同じ日に買ってことになる、はははは<はははははは>それはほんとに謎!

##### (6) 「情報保持」のスキル練習例 1

A：この間さあ、高校のときの友だちと学校の近くの昔からあるカレー屋さんに行って、お昼にビーフカレーを食べたんだけど<うん>その日、家帰って、台所行ったら、お母さんがカレー作って<はははははは>お昼に食べたのと同じようなビーフカレーで<ははは>いつもはもう少し違う感じの、チキンカレー作ることが多いのに<うん>その日は、なんか私がお昼に食べたものみたいな、同じようなカレー作ってた、はははは<はははははは>昼も夜もカレー!

このような類似の談話構造のものを聞かせることを提案する理由は、学習者に、まとまった話の長さに慣れて、途中まで聞いたときにそれに続く内容が予想できるようになってもらうためである。その際、資料1のように台詞を抜いたスク립トを見せておくとよいと思われる。談話の長さが把握でき、学習者が数行あるうちのどの行で情報が保持できなくなるのか、自分の目で確かめられるからである。また、同じ談話構造の話の複数、内容確認の質問とともに用意しておけば、学習者のレベルに合わせて「A. 内容を確認する質問を全部読んでからスク립トをある程度見せて聞く」、「B. 内容を確認する質問を全部読んでからスク립トは見ずに聞く」、「C. 最後の質問だけを読んでから何も見ずに聞く」というように段階的に難易度を上げていくことも可能である。最終的には聞き手として会話に参加し、相槌を打ったり適切な応答をしたりする練習を行うことで、「参加型聴解」ができるようになると思われる。

#### 5. まとめ

雑談のデータの分析から、「聞き手参加型聴解」ができるようになるためには「情報照合」や「情報保持」などのスキルが必要であることを明らかにした。これらのスキルは、雑談に限らず、さまざまな聞き取りの際、母語話者であれば自然に駆使しているスキルであると言えるが、初中級学習者にとっては容易ではないため、背景知識と聞き取った情報を照合する練習を繰り返す、内容の異なる同じ談話構造

の会話を繰り返し聞くとといった「参加型聴解」の練習を行うことを提案した。このような練習を含む「聞き手参加型聴解」の教材開発が急務であると言える。

## 注

- 1) 本研究では雑談を筒井(2012: 33)に基づき、「特定の達成すべき課題がない状況において、あるいは課題があってもそれを行っていない時間において、相手と共に時を過ごす活動として行う会話」とする。
- 2) 縮約形を聞いて理解する練習、言いよどみや語順の乱れを適度に含む会話を繰り返し聞くとといった練習が考えられる。

## 参考文献

- 尹松(2002)「第二言語・外国語教育における聴解指導法研究の動向」, 『言語文化と日本語教育』, 増刊特集号, 279-288, 日本言語文化学会.
- 奥野由紀子(2016)『「聞く」プロフィシエンシーを高める練習方法の転換』, 『日本学研究叢書』第9巻『日本語教育の研究』, 246-268, 外語教学与研究出版.
- 奥野由紀子・金庭久美子・山森理恵(2016) 鎌田修(監修)『生きた会話を学ぶ 中級から上級への日本語なりきりリスニング』, ジャパンタイムズ.
- 奥野由紀子(2017)「参加型聴解教材『なりきりリスニング』を用いた授業実践—実習生の振り返りからの考察—」, 『日本語研究』37, 89-104, TMU日本語・日本語教育研究会.
- 筒井佐代(2012)『雑談の構造分析』, くろしお出版.
- 松崎寛(2008)「聞く教育」, 『日本語学4月臨時増刊号』, 27(5), 229-237, 明治書院.
- 横山紀子(2004)「第2言語における聴解ストラテジー研究: 概観と今後の展望」, 『言語文化と日本語教育』, 185-201, お茶の水女子大学日本言語文化学会.
- 山森理恵(2016)「雑談の聴解教材化の課題」, 『言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム報告集』, Kindle版電子書籍, 言語教育の「商品化」と「消費」を考えるシンポジウム運営委員会.

**資料1 「情報保持」のスキル練習例 スクリプト**

友だち①: わたしさあ、靴下、全然持ってなくて  
あなた①: 靴下持ってないの?  
友だち②:   
あなた②: ふうん  
友だち③:   
あなた③: ああ  
友だち④:   
あなた④: ああ  
友だち⑤:   
あなた⑤: うん  
友だち⑥:   
あなた⑥: はははははは  
友だち⑦:   
あなた⑦: ははっ  
友だち⑧:   
あなた⑧: うん  
友だち⑨:   
あなた⑨: はははははは  
友だち⑩:   
あなた⑩: それは謎の話だね。

**質問**

1. 友だちは何をしましたか。
2. 同じ日に友だちのお姉さんは何をしましたか。
3. 友だちとお姉さんはどんなものを買いましたか。